



# 2023 年 栽培日記

JA 滋賀蒲生町



## Vol.6 刈取り・搬入編

〔撮影日：2023年9月19日～9月25日〕 稲穂の色も黄金色になり、待ちに待った収穫の時期となりました。今年記録的な猛暑で、9月に入っても暑い日が続きましたが、生産者さんは暑さに負けず順調に刈取りを進めています。刈り取られた日本晴は、次々とカントリーに運ばれています。

9月は、コンバインで忙しそうに刈取り作業をする生産者さんの姿が蒲生地域のあちらこちらで見られました。

日本晴は9月いっぱいまで刈取りを終える方が多く、10月に入ると輸出用米の刈取りが始まり、10月半ばにはほとんどの地域が終える予定です。

収穫された籾(もみ)は、900kg入る**フレキシブル・コンテナ(フレコン)**に詰められ、カントリーエレベーターへ搬入されます。搬入された籾は、**トラックスケール**で計量後カントリー内に流し込まれ、乾燥機へと送られます。乾燥作業は、職員が24時間体制で交代し、均一に乾燥されるように調整しながら行います。乾燥後は、貯蔵され出荷前に籾すりして出荷されます。



フレコン搬入の様子

カントリー内へ

トラックスケールで計量後、カントリー内へ



小学校稲刈り体験の様子

蒲生地区にある各小学校では、食農教育の一環として、学校近くの田んぼで毎年春に田植えをして秋に稲刈りをします。今年も晴天の下、無事稲刈りを行うことができました。

各地域の生産者の方やJA職員が協力し、小学生に教えながら鎌で1株ずつ刈取っていきます。子どもたちは積極的に稲刈りに挑戦し、藁で稲を縛る難しい作業もボランティアの方に教えてもらいながら頑張っていました。

最後にコンバインでの刈取りを見学しました。手で刈ると時間がかかっていた作業が、コンバインならあっという間の様子に子どもたちは驚いていました。

子どもたちには、田植えから稲刈りまでの一連の学習を通じて、食や農業の大切さ、楽しさを知ってもらえたらと思います。



コンバインでの刈取りを見学